

普及現地情報



発信年月日:令和7年(2025年)6月19日
所 属 名:大津・南部農産普及課
番 号:A25003
発 信 者 名:河村、宇野、北川

グリーンな栽培体系での水稻増収を目指して！ (愛郷米生産組合の研修会開催)

6月10日、野洲市の愛郷米生産組合で移植1か月後の基本的な栽培技術のおさらいと生産者間の意見交換を行う場として、グリーンな栽培体系での水稻栽培技術研修会を開催し、室内研修会と組合員のほ場巡回を行いました。

野洲市の愛郷米生産組合では環境こだわり栽培で「にじのきらめき」や「コシヒカリ」を栽培されています。令和4年には更なる化学肥料低減と有機農業を目指した栽培体系を実現するため、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」に取り組み、産地計画、栽培マニュアルを策定されました。しかし、近年の気候変動による収量の減少が問題となっています。そこで、今回の研修会を開催しました。

本研修会ではまず、室内で当課から移植後1か月の水管理、還元障害対策や追肥について説明を行いました。その後、組合員のほ場を1筆ずつ巡回し、現地で雑草の診断や還元障害の発生有無の診断を行いました。その際に、草種に合わせた除草剤の提案や水稻の生育状況確認も同時に行い、これからの水管理についてアドバイスをしました。

組合員からは水管理と除草剤の関係や、藻類の対策についての質問があり、雑草対策について理解を深めていただき、有意義な時間になりました。

今後も、愛郷米を後世に繋いでいくために、研修会等を通じて、水稻の収量向上に向けて、支援していきます。



室内研修を聞く参加者



ほ場巡回にて水稻生育診断を行う